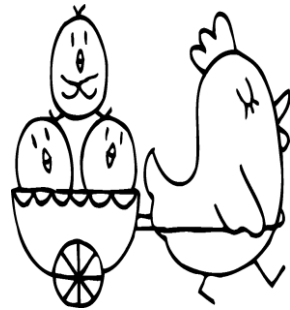


ひよこだより

草笛学園 2024年 11月号



11月に入り、朝と夜は寒くなってきましたね。あたたかい服やあたたかい食べ物を食べたりして、寒さ対策をしていきましょう!! 一歩外に出ると、落ち葉やどんぐり松ぼっくりを拾ったりすることもできます。秋を楽しんでいきましょう♪



道具の世界

「道具への憧れの心」は、一歳半ごろの発達の質的転換期になると、道具を見つめ、道具をよく知ろうとし、道具の形を確かめながら使うようになってきます。したがって、押しついたり、叩いたり、引いたりという一様の操作ではなく、押しつけてうまくいかなかったら、今度は突いてみるというように、道具を吟味しながら、自分なりに操作を発展させていこうとしているのです。そこには、失敗から立ち直れる心と活動の意図＝目的を発展させていく力が生きてはたらいています。こどもはこうやって活動の結果や道具の性質に応じて、自分の操作を調整していく力、いかにすれば自らの力をコントロールしつつ、発展させる力を獲得していくのです。

対象に応じた調整ができるようになると、道具の操作も、手首の回転が可能になりはじめ、それが道具の操作をますます充実させてくれるのです。えんぴつを持てば、それまで腕の往復運動で描いていた「なぐり書き」から、手首の回転を使った「円錯画」が発展してきます。また、スプーンですくって口へ運ぼうとすることでしょう。じょうずにすくえないものは、他方の手でスプーンの先にのせて、それから口へ運ぼうとすることです。スプーンで自信をもちはじめたからか、この時期から家族の使う箸に憧れ、自分も使いたくなります。一歳半ころまでは、スプーンを使っても、うまくいかないと手づかみになっていました。また、持ち方を矯正しようとする、怒り出すこともあったでしょう。しかし、この時期になると、自分から持ち直す姿も見かけるようになるのです。

ともに生活する喜び

何でも自分でしてみたい「生活の主人公」は、自分でさせてことによって、「生活の主人公」になる喜びを、ますますふくらませていきます。また、おとなのしごとへ憧れ、おとなの生活動作を知らず知らずに学習していくものです。子どもたちのあそびを見ていると、自分で生活

をこなせる喜びやおとなの生活動作を身につけた喜びを随所に発見することができます。「つもり」の芽生えといえるでしょう。「つもり」は生活の鏡です。子どもが「生活の主人公」として、いきいきと経験をひろげている家庭でのようすが背後に見えるような気がします。

だから、読んでもらってうれしい本の内容も、「いただきます」、「おふでちゃぷちゃぷ」、「みんなうんち」など、子どもの生活経験に根ざしたものになっていくことでしょう。子どもが生活経験を再現してみようとするとき、自分でしてみたい願いや自分でできた喜びをともに生活するおとなによって、同じ目の高さでうけとめてもらっているはずで、子どもは自分の経験を他者に共感してもらえることによって、自分だけの経験ではないことを知っていきます。そして、子どもからも他者と同じ目の高さで共感したい願いが強まっていくのです。共通の生活経験をもつことが、イメージを共有し、イメージを発展させていくために、とてもたいせつな土台になるということです。

参考文献：『発達の手帳・上』 著：白石正久

次回のひよこ教室は…

ひよこ教室①…12月 7日 (土) 9:20~11:15

→サーキットをします

ひよこ教室②…12月21日 (土) 9:20~11:15

→サーキットをします

◎持って来るもの

水筒・シューズ

※個別相談も行っています。職員とゆっくりと話がしたい。子どもの発達状況を知りたいなどございましたら、担当職員の方にお知らせください。

『参加される皆様へ』 ~ご協力をお願いします~

- お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- 参加費は無料です。(おたよりがホームページに掲載され、通信費が必要ないため) 製作やクッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度連絡します
- 水分補給のため、お茶を用意して下さい(ジュース類は控えてください)
- きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前に職員までご相談ください
- トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください